

# 研修員's VOICE

Vol. 17

世界各国からJICA沖縄にやって来た  
研修員を紹介しています。



氏名: Ms. Norhasliza Binti Mohd Harun  
国名: マレーシア (リザさん)

研修期間: 2018年 5月 9日 ~ 2018年 9月 8日

コース名: 農産物を輸出するための実践的植物検疫技術  
(ミバエ類殺虫技術)

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



## マレーシアってどんな国ですか？

東南アジアの中心に位置しマレー半島とボルネオ島の一部を国土とする13の州と3つの連邦特別区で構成されています。面積は約33万km<sup>2</sup>、人口約3,200万人、マレー系、中国系、インド系、先住民が共存する他民族国家です。公用語はマレー語ですが、中国語やタミール語(インド)も話され、民族間での共通語には広く英語が使われています。マレー半島中央部にある避暑地、キャメロンハイランドは美しい自然と多様な動植物が見られ、ユネスコ世界遺産に登録されている古都マラッカと並ぶ人気の観光地です。



キャメロンハイランドの茶畑



マレーシアの象徴  
ペトロナスツインタワー

## 今回の研修の目的は？

自国では農業省に勤務し、植物検疫証明書を発行する前の、輸出用作物や植物製品の分析、スクリーニング、検査や国際基準の下での検疫管理に携わっています。マレーシアの果実は、多くの国で検疫害虫とされているBactrocera属のミバエを含んでおり、輸出ができない状況です。今回の研修でミバエの飼育や熱処理技術について学び、将来的に日本を含む果実の輸入国から求められる植物検疫の輸入条件を満たし、輸入解禁を目指したいと思います。



那覇植防でのミバエを使った実験

## 日本での生活はどうでしたか？

一言で言うと、日本が大好きです。日本人は親切で、規律を守りお互いを尊重します。人種や言語は皆違いますが、日本の友人や他国からの研修員と過ごす時間は本当に楽しいものでした。小学生とのゲームを通して日本の歌を上手に歌えるようになったり、複雑な日本の地下鉄を乗りこなせるようになるなど、研修以外でも日々新しい学びがありました。皆さんがマレーシアにお越しの際には、皆さんが私をもてなしてくれたように、私も皆さんをおもてなしますので、ぜひマレーシアにお越し下さい。



沖縄の小学生にマレーシアの紹介をしました

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。